

弘前大学農学生命科学部地域環境工学科
令和4年度農業土木コース教育評議会記録 案

場 所：弘前大学農学生命科学部 203 多目的室
日 時：令和5年3月25日（土）15:30～17:00

前回の記録（資料0）の確認

資料の通り承認された。

議事

（1）令和5年、6年度教育評議員について（資料1-1、1-2）

資料1-1および資料1-2に基づき説明があり、櫻田委員、中村委員、小中委員の令和4年度末での退任希望が承認された。新たな委員について2名の推薦を依頼することとした。
褒賞委員は小笠原委員と井ノ上委員に依頼する提案があり了承された。

（2）2022年度継続審査への対応（資料2-1～2-6）

資料2-1に基づいて継続審査スケジュールの修正説明があり、資料2-2から資料2-5に基づいて継続審査に申請した書類（継続審査申請書、自己点検書（概要編、自己点検結果編、添付資料編））について説明があった。

（3）学生の学習目標達成状況（資料3-1、3-2）

資料3-1に基づいて、令和4年度の農業土木コース修了生20名の学習・教育到達目標、単位習得状況について説明があり、所定の修了要件を満たしていることを確認した。

資料3-2に基づいて、1年生から3年生までの面談結果および就学状況について説明があった。1年生の後期試験合格者の成績が良くない理由について質問があり、例年は後期入試入学の学生の成績が良い傾向があるが、入試の倍率に左右されると説明があった。

農業土木コースと農山村環境コースの選択について質問があり、基本的には学生の希望通りであることと、コースの特徴について説明があった。

（4）教育褒賞（資料4）

資料4に基づいて、教育褒賞の評価点について説明があり、矢田谷先生の水理学演習が対象となることが認められた。なお、今年度は2021年後期の授業アンケートがなかったため、2022年前期の科目の

みでの評価であったことが説明された。

(5) 就職状況（資料5）

資料5に基づき、卒業予定者の就職状況について説明があった。青森県庁の志願者数について質問があり、R4年度の受験者は少なめであったが、例年は多いとの説明があった。

(6) その他（資料6）

資料6に基づいて、2022年度JABEE認定プログラム年次報告書について説明あった。

高校生へのリクルート、アピールについて意見交換が行われ以下のようなコメントが出された。

- ・高校生の農業土木への関心が低い。
- ・土木系の専門科へ出向いても県庁の農業土木希望者は3、4人で少ない。河川砂防、道路の希望は多い。
- ・県が2年前から始めた土地改良人材ネットワークは来年度から予算はないが継続する予定。動画とパンフレットを作成などを行っており、地道にアピール活動を続ける。
- ・土木のダム現場等はタコ部屋の様な仕事大きい。
- ・災害対応については、魅力がある仕事なのではないか。
- ・弘前大学も近隣の工業高校や普通科の高校へ説明を行っている。進路指導の先生が農業土木についてよくわかつていないので、先生に説明する必要がある。

また、農業土木コース評議会全般について以下のような自由意見があった。

- ・少子化が厳しくなっていることを感じている。2年目の県職員は農業土木に魅力を感じ始めていて続けていきたいと言っている。やめないような環境づくりをしたい。入ってきた人をどれだけうまく育てるか？も一つの方策
- ・大学への志願者が少ないことについて、学会誌JABEE特集からメリット、デメリットを読んだが、JABEE出身の学生が世の中で若いうちに活躍するのが一番いい。いつの段階で技術士となっているか集計があると良い。当社でJABEE以外の若手が技術士1次試験に落ちるのは聞いたことがない。弘前大JABEE修了生が何年後にとっているかはアピールになる。
- ・愛水館（久野正太郎）を資料館のように改装し、子どもや県職員などに説明をして農業土木アピールに活用している。
- ・資料3の面談資料はきめ細やかに記載されているので感心した。青森県をもっと受験してもらえるようにインターンシップの内容を魅力的にしたい。コミュニケーション能力等、課題解決能力は仕事でも

重要なので中身を充実すると良い。グループワークの面接試験もあるが、個人差がある、鍛えると採用試験にはいい。

・青森県土地改良調査設計技術協会の仕事で県との人財育成の仕事をしているので、大学と連携しながら、お役にたちたい。

・これまでの評議会の経験は若い人と付き合ううえで参考になった。2年前に入会した弘大OBは1名JABEEではなかったが1次試験を合格し、3名揃って技術士をめざすことになって良かった。

今後、少子化で難しいがJABEEの継続的発展、農業農村工学分野を応援したい。

・一番最初からやってきて、当時と比べると資料は充実してきている。修了生のその後を確認して、アピールや反省をすべき。